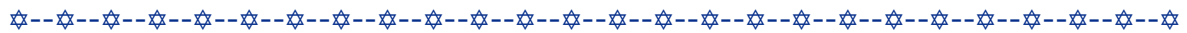




いまさら聞けないウクライナ戦争シリーズ #4

暴走プーチンを止める方法

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今回のウクライナ戦争、ロシアがおっばじめたんですが、これは弁解の余地がない戦争です。

ウクライナという国は、実は決してクリーンな国ではないですね。

汚職が蔓延している国だというのは世界中が知るところです。

しかし、どんなに汚職大国であっても、それを理由に侵略を肯定することはできません。今回侵略したのはロシアで、侵略されたのはウクライナ。

これは国連憲章に対する明確な違反なのです。

実は、国連はやってもいい戦争を2つ語っています。

①外国から攻め込まれた時に防衛のために戦う戦争。防衛戦争。

すべての国の国民には生存権があるので、それに基づいて、自らの命が危険に晒されている時は、防衛戦争が当然のこととして認められています。

②国連安全保障理事会で武力制裁が認められた場合。

今回のウクライナ戦争は、この両方に該当しません。

なので、ロシアの弁解の余地がない侵略戦争だと言えるのです。

では、この戦争を始めたロシアのプーチンを、何らかの方法で罰することはできないのでしょうか。普通は法律に違反したら罰則が付きます。

国の中では、違反者を取り締まるための様々なシステムがありますね。警察とか。

そのように、国際社会の中であからさまな悪が行われた時、それを罰するようなシステムはないのでしょうか。3つ考えたいと思います。

### 1) 国連総会における非難決議

今年3月2日、ロシアのウクライナ侵攻についてロシア非難決議が出され、絶対多数の賛成で採択されました。国連加盟国は現在193あります。

その内の141か国が「ロシアけしからん！」という非難決議に賛成したんですね。

反対したのは5か国だけ。本人のロシア・ロシアの同盟国ベラルーシ・シリア・北朝鮮・エリトリアの5つ。中国は棄権しましたね。

つまり、全世界の国連加盟国の73%の国が「ロシアがやっているウクライナ侵攻はけしからん！即刻撤退すべきだ！」と賛成したんです。

しかし、この国連総会決議には1つ問題があります。

どんなに絶対多数で非難決議が採択されても、それをロシアに強制する法的拘束力がないんですね。いわば口だけの批判。「駄目だぞ」と言ってみただけの世界。

“国連軍を結成して武力を使ってでもやめさせる”という国連の強制力は、国連安

全保障理事会でそれが決議された場合のみなんです。  
しかし、ロシアは常任理事国で拒否権を持っているので、安全保障理事会の武力制裁が決議案として通ることはあり得ません。

## 2) 国際司法裁判所

オランダのハーグに本部がある、いわゆる世界法廷と呼ばれるところですね。  
でも、国際司法裁判所は国家間紛争を裁く裁判所で、個人を裁くのではないんです。  
そして、この裁判の開催には1つ大きな条件が付きます。  
それは、訴える国だけでなく、訴えられている国がその裁判開催に同意するという  
こと。なので、たとえウクライナが国際司法裁判所に訴えても、ロシアはその裁判  
に出て来ることに同意しないので、裁判そのものが開催されないんですね。

## 3) 国際刑事裁判所

これもハーグに本部があります。ここは、例えばジェノサイドなどを引き起こした  
張本人たちを裁く裁判所で、英語でインターナショナル・クリミナル・コート/  
International Criminal Court。その頭文字を取ってICC。クリミナル/犯罪なので、  
国際犯罪裁判所と言ってもいいかもしれません。ここは個人を裁きます。  
世界で色んな残虐行為を働いた独裁者たちを裁く国際刑事裁判所が、今年3月17  
日、プーチン大統領に逮捕状を出したんです。

逮捕状が出されたら、通常は、逮捕状の対象者がいる国の警察機構が動きます。  
プーチン場合はロシアの警察機構が動いて彼を逮捕し、差し出すことになる。  
だけど常識的に考えて、ロシアの警察機構が現職のロシア大統領を逮捕して、首を  
差し出すなんてことはあり得ませんよ。  
だから、逮捕状は出しているけど、実質的に逮捕できる組織はないんです。

では、これは無意味なんですか。私は無意味ではないと考えます。  
これによってプーチン大統領の行動に、一定の枷がはめられることになるからです。

今年の広島 G7 サミット、岸田総理はずいぶん男を上げましたよ。  
あのサミットの大きな目玉は、なんとといっても、ゼレンスキー大統領の突然のサミ  
ット参加でした。あれで G7 サミットと完全に一体化することに成功したし、G20  
議長国首脳とも会談することができたわけで、非常に大きなアピールの場になった  
ことは間違いありません。

しかし、一部の親ロシア派の人たちや識者から「ゼレンスキーという、戦争当事者  
の一方だけを招くのは良くないんじゃないか。ゼレンスキー大統領を招くのならプ  
ーチン大統領も招いて、G7 で話し合いの場を持つべきだったのではないか。それ  
こそがバランスの取れた外交ではないのか」という意見もあったんです。  
それは、あまりにも実情を理解されてない意見としか言いようがないんですね。

日本は ICC 加盟国です。もしプーチン大統領が来日したら、日本の警察は彼を逮捕  
し、差し出す義務を負うのです。プーチンがそんなリスクある事をするわけがない。

ICC から逮捕状が出た段階で、プーチン大統領は世界中の ICC 加盟国に出入りすることができなくなったんです。これは非常に意味あることだと思いますね。

もう 1 つ。プーチン大統領は戦争を始めた時、ウクライナを簡単に陥落できると考えていました。3 日ないし 5 日あれば、ウクライナを滅ぼすことができる。ウクライナを滅ぼすってどういうことか。ウクライナの国民が選んだゼレンスキー大統領を捕える、あるいは亡命に追い込んで、骨抜き状態にして、プーチンの息の掛かった政治家を据えて、実質的にロシアが支配する、というシナリオです。だけど 1 年 3 か月、戦争状態がズルズル延びているんですね。この結果、ロシアは経済的に非常な苦境に立ち、また国際社会から孤立しています。

そして、中国はこの機にロシアに近づいて、国際価格の 35% – 40% 引きのバカ安の値段でロシアのエネルギーを購入し、それによってロシアは一日 15 億ドル失っているんです。そればかりか、中国は旧ソ連圏の中央アジアの国々に接近し、今やウラジオストクにまで手を伸ばそうとしているわけですね。

たとえロシアがこの戦争に勝利したとしても、得るものより失うもののほうが大きすぎる。なにより、大義の無い戦争なんですよ。長引くことでウクライナは大きなダメージを受けますが、ロシアも決して無傷ではない。どこかでこの戦争を終わらせなければならない。その時が来るでしょう。その終わらせ方に、これ使えるんじゃないですか。

このウクライナ戦争はロシアの戦争というよりも、“あくまでも戦争犯罪人であるプーチンが勝手にやったことだ” とすり替えるのです。すなわち、全責任をプーチン個人になすりつけて終わらせるということです。現に今 ロシア国内で、そのプロパガンダが始まり出してますね。最近ロシア国内で、プーチンの元側近や息の掛かった人たちがプーチン批判を始めます。まあ この人たちは例外なく暗殺されてますが、そんな動きがあるのです。やはり、悪に対して「これは悪なんだ」と言うだけでも価値がある。意味がある。その典型的な症例ではないかなと思いました。

ウクライナ情勢については、これからも関心を持って取り上げていきます。なぜなら、エゼキエル戦争と密接な関連があるからです。ウクライナ戦争とエゼキエル戦争は別物です。しかし、エゼキエル戦争のいくつかの要素は、ウクライナ戦争によって準備されたと言えるんですね。そのような観点で聖書預言を理解するためにも、今 目の前で起こっていることを知っておくことはとても大事だと考えます。なので、このシリーズ続けていきますので、お付き合い頂けたら感謝です。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！